



“デンキュウとアート”

contemporary fine art exhibition

会期:2019年1月5日(土)～1月20日(日) 11:00～20:00(最終日は17:00まで)

会場:アートスペース猿 福岡市中央区天神3丁目4-14 2F

電話:092-781-7597

ホームページ:<http://www.artspacebaku.net/>

アチケンとは、福岡市在住のアーティスト3名によるアートユニットです。

各自の作品を寄せ集めて展示するような既存のグループ展ではなく、新しい形のグループ展の在り方を提示しています。展示会ごとに与えられた「お題」にたいして、三人がそれぞれの特殊解を模索していきます。

一人の独立したアーティストとしての研究テーマの探求と、お題に対してどのような解答がふさわしいのか、その交差する部分で、作品は産み出されます。そして、それぞれの解答(作品)は、化学反応的に響きあいながら、一つの空間として演出され、インスタレーション(場所や空間全体を作品として体験させる芸術作品)としての様相を見せることとなります。

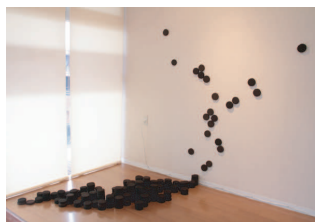
「デンキュウとアート」は、アチケンによる第5回目の企画展です。

今回は、それぞれのアーティストに裸電球をひとつ渡し、電球と作品の魅力的な関係を考えてもらいます。

暗闇の中の三つのデンキュウ。

その傍には、どのような問題提起がなされるのでしょうか？

薄明りに照らされた3つの作品と、「暗がり」をお楽しみ頂ければと思います。



安倍智子(あべ ともこ) / 1983年生まれ 福岡県出身

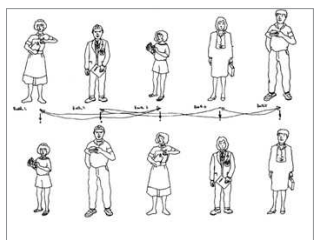
大学時代より、植物を用いた立体作品、インスタレーションを中心に発表。

現在、自然の中に身を置き、農家として生活を送る傍ら、美術作品の制作を行う。

コンセプトは、「生命の循環」。

めぐるいのち。みな死に、土に還り、次の生命を育む。

日々の畑仕事から生み出されるイメージを、空間に表現する。



ナカムラキミヤス / 1974年生まれ 長崎県出身

建築デザイン、美術展のキュレーションなど幅広い経験をもとに、絵画、ドローイング、写真、彫刻的なマケットを用いた作品を発表。記録・集積をテーマに作品制作を行っている。

現在、初期ルネサンス美術の、科学的なアプローチに触発され、「解像度」を主題とした立体作品と平面作品を展開中。



宮野英治(みやの えいじ) / 1971年生まれ 福岡県出身

版表現、ドローイング、インスタレーションを中心に発表。

「人間とは何か」という根源的な問いに対し、思索、表現を繰り返す。

今回は、個と集団(社会)との関係性、個と個の関係性、己と他者の関係性を、立体作品を含むインスタレーションとして提示。